

寄稿文・年表・資料 電子図書館の花火は上がるか?

著者	岡部 幸祐
内容記述	筑波大学・図書館情報大学統合記念公開シンポジウム 日程：2013年1月24日 会場：筑波大学大学会館国際会議室
雑誌名	電子図書館の軌跡と未来：ますます広がる図書館サービス：報文集
ページ	101-103
発行年	2013-01-24
URL	http://hdl.handle.net/2241/00148534

電子図書館の花火は上がるか？

岡部幸祐

インターネットで見る「電子図書館」オープン

論文など世界中からアクセス

(毎日新聞 平成10年3月19日 茨城版朝刊)

I ネットで蔵書閲覧

筑波大付属図書館システムの運用開始

(読売新聞 平成10年3月19日 茨城版朝刊)

筑波大学附属図書館の電子図書館は、平成9年度に文部省（当時）から電子図書館推進経費の配分を受けることになり、平成10年の1月にシステムを稼働した。

導入が決まってからというもの、仕様策定委員会が何度も開催され、システム調達の準備が進められるのと平行して、電子図書館のデータベース等の構成、コンテンツの検討が続けられた。電子図書館システムの入札が終わってからも、電子図書館に登録するコンテンツの著作権をどう処理するかを検討が積み重ねられ、その仕組みが作り上げられていった。同時に貴重書等を始めとするコンテンツの作成が始められた。こうして平成10年1月のスタートに向けて着々と電子図書館導入の準備が進められていったのである。

そして、この電子図書館のスタートを記念して、システムお披露目のオープニングセレモニーが、3月18日に盛大に開催されることになった。

1月にシステムが稼働した後も、ほっとする余裕もなくオープニングセレモニーの準備に取りかかることになり、開催までの3ヶ月の間には、華々しい式典の裏に隠された、図書館職員たちの様々な努力の積み重ねがあった。そんな裏方としての苦労話を少し綴ってみようと思う。

コンテンツもお色直し

筑波大学電子図書館は、「文献情報」、「全文情報」、「リンク集」、「利用案内」の4つのカテゴリーに分けて構成されることになっていた。「高度発信型電子図書館システム」として構想されたこともあり、「全文情報」のコンテンツの中心は学内で生産された学術情報、すなわち学位論文、科学研究費や大学独自のプロジェクトによる研究成果及び紀要類である。全文情報のもう一つの柱となる貴重書についてはすでに電子化が始まっており、電子図書館のスタート時にはある程度のコンテンツが用意されていた。これらのコンテンツについては、入力に関するいくつかの問題があったものの、それさえクリアすればあとは時間とともに順調に蓄積されるものであった。

しかし、通常の電子図書館コンテンツとして作成される画像データは、モノクロの仕

様であった。オープニングセレモニーには、できればカラーの画像データが欲しい。急遽、カラーの画像データを作成することになった。この時に作成したのが、エミールの初版本の口絵のカラー画像で、これはその後も電子図書館のデモンストレーションにたびたび登場することになる。

オープニング用に特別のデータを用意するのは、若干問題もあったかもしれないが、これがその後の高精細画像データ作成につながったのだとすると、けがの功名とも言えるのかもしれない。

Tulips は何を意味するか

筑波大学の蔵書検索システム (OPAC) は、電子図書館システムの導入前から TULIPS (Tsukuba University Library Information Processing System) として親しまれてきた。電子図書館システムを導入するにあたり、この TULIPS の愛称を残したいということになった。そこで、この頭文字を使って筑波大学電子図書館をあらわす新しい英文名称を募集することにした。応募は本学の職員や教官のだけでなく、他大学の方からもいくつか寄せられた。

Tsukuba University Landmark Intelligent Power Station

Tsukuba Ubiquitous Library Integrated for Progressive Services

等の英文名称があったが、最終的に物理学系の宇川教授の案、

Tsukuba University Library digitized Information Public Service が採用されることになった。

今はやりの Ubiquitous がもう既にこの時に使われていたのには驚かされる。が、この当時にはまだ digitize のほうがイメージされやすかったのだろう。

また、英文名称の応募と同時に、この Tulips をモチーフにしたロゴを作ることも計画され、応募作品から選ばれたロゴは現在も筑波大学附属図書館の WEB ページを飾っている。

Tulips

i のところがチューリップのアクセントとなっているのだが、この i は同時に Intelligent や Information の i でもあるとのことであった。

これらの英文名称、ロゴはオープニングセレモニーで発表され、オープニングセレモニーを飾ることになる。

オープニングセレモニー

このようにオープニングセレモニーの準備が着々と進められていった。セレモニーでは、記念式として、Tulips の英文名称とロゴの発表が行われ、それに続いてシステム概

要やデータベースの内容等の紹介、デモンストレーションが行われることになっていた。

そこで、また、問題が。普通、オープニングのセレモニーにはテープカットがつきものだが、電子図書館だけにテープカットでは似合わない。それでは、とシステム起動式を行うことになった。しかし、セレモニーで本当にサーバーを起動するわけにもいかない。結局、パソコンの画面上に電子図書館のスタートをイメージする画面を映し出すことで、起動式とすることになった。そのプログラムを起動するキーを押してもらうのだ。

さて、どんなイメージを画面に出せばいいのだろう、考えあぐねたあげく、私は、電子図書館のスタートを祝う花火を上げることにした。キーを押すと「祝筑波大学電子図書館」の文字とともに画面に花火が上がる、その後に WWW ブラウザーが立ち上がり、そこには電子図書館のトップページが表示されている。しかし、その花火が上がるのとブラウザーが立ち上がるタイミングが難しい。あまり早すぎても余韻がない。なかなかうまくタイミングを制御できなくて、花火を打ち上げてばかりいる日が何日か続いた。

そして、オープニングセレモニーの当日がやってきた。システム起動式は、江崎学長をはじめとする、列席のお歴々らによって行われた。電子図書館のスタートのキーが押されるたのだ。

しかし、電子図書館を祝う花火が見事打ち上がったかどうか記憶がさだかではない。

私の記憶に残っているのは、セレモニーがすべて終わったその夜、後片付けも一段落したなかで、パソコンの前に座り起動のキーを押し、画面に打ちあがった花火をみながら心地よい疲労感に満たされていたことだけだ。

(おかべ・こうすけ 図書館部情報管理課図書受入係長)